



今月の題字
大島礼子さん

(みどり市大間々町)

レイちゃんは大間々祇園祭第四街のムードメーカー的存在で太鼓の師匠。レイちゃんの隣に座り、横目で見ながら太鼓を叩くと上手に叩けます。

虹の架橋

検索

で、インターネットからでもご覧いただけます。

さくらもーるセンターコートで『ありし日の富弘さん』写真展

八月十九日(水)から二十三日(日)まで、さくらもーるセンターコートで、『ありし日の富弘さん』写真展を開催いたします。この写真展を開催するにあたり、富弘さんの奥様の昌子さんをはじめ、富弘美術館を囲む会群馬県支部の会員がいろいろな場所で富弘さんを撮影した貴重な未発表写真を百点以上展示、



自宅庭にてご家族と 齋藤利江さん撮影

小耳にはさんだ
いい話
(文責・菊)《372》

戦国時代の末期まで、大間々は「吹払い野」と呼ばれた荒地でした。文禄二年(一五九二)に「大間々草分け六人衆」(高草木家を筆頭に、長澤、大塚佐藤、金子、須永)の人たちの手によって町づくりがはじまりました。そして六年後の慶長四年(一五九九)には、大間々神明宮が現在の地に遷座して大間々の町並みが徐々に形成されてきました。神明宮の初代神主大楽院勝尊の屋敷は街の中心であった三丁目にありました。勝尊は

ありし日の富弘さんを偲びます。

また、特別出品として、笠懸町の庄屋久平さんが所蔵している原画2点も展示します。この原画は、富弘さんが群大病院に入院中の一九七五年と七八年に描いた極めて貴重な作品で、富弘作品の原点ともいえるものです。今回の写真展を主催する富弘美術館を囲む会群馬県支部では、只今、会員を募集中。年会費千円で美術館の入館が無料になり、季刊誌も届きます。富弘さんファンの方は是非ご入会をお勧めします。写真展開催中は、さくらもーる専門店街から、抽選で二〇名様に美術館特製の星野富弘詩画ハンカチ二枚セットをプレゼント。お問合せは、足利屋、アスクへ。

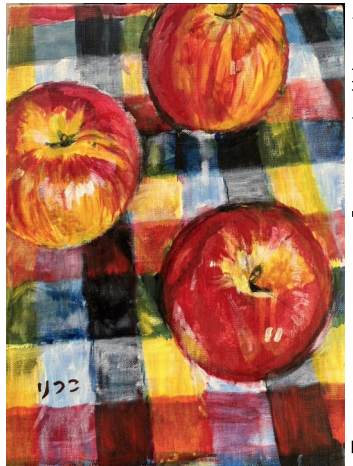


寛永六年(一六二九)産業振興や五穀豊穡、悪疫退散の神として知られる京都八坂神社の御分霊を勧請し、屋敷内に八坂神社を祀りました。そして三年後の寛永九年六月二十四日(新暦の八月二日)に祇園祭を始めました。八坂神社の主祭神である素戔鳴尊(すさのをのみこと)は牛頭天王(ごずてんのう)ともよばれ、お釈迦様の生誕地の祇園精舎の守護神であったことから八坂神社の祭りを祇園祭と呼ぶようになった。大間々の祇園祭でも当番町のことを天王町と呼んで、御祭神を天王様と呼んでいるのは牛頭天王のことを指している。八坂神社は全国に二千三百か

大間々祇園祭発祥の地

ら三千社あるともいわれます。桐生市相生町の八坂神社のある場所を天王宿と呼んでいるのも牛頭天王が祀られている場所ということに由来しています。現在、三丁目の集会場の横には小さな石の祠があり「大間々祇園祭発祥の地」という看板が設置されています。その案内看板には、「八坂神社は国の政策でやむなく神明宮境内地に移転合祀しましたが、御神徳を仰ぐ熱心な地元の人々により跡地に石宮を建て、毎年お祭りを行っております。神明宮宮司 齋藤巖書」と記されています。

世界一小さな
定利屋
トイレ美術館



今月の絵《372》
前東律子さん『シナノスイート』

今年の桐生市文化祭市展で文化協会会長賞を受賞した前東律子さんの作品。この作品は「静物」を上から見たという視点や、三つのリンゴを画面の上方に配置した構図が斬新で、背景の濃密な色彩のチェック柄も効果的」という評価を得て群馬美術家連盟の会友に推挙されました。十一月十三日から一五日まで、市展の美術・書道や写真の三部門で特に優れた評価を受けた受賞作品が一堂に展示されますのでご覧下さい。律子さんは、15年前からみどり市立大間々博物館コノドント館に勤務しており、博物館に行くときに明るい笑顔で迎えてくれます。

第三百七十三号は令和八年九月一日(火)発行予定です。

靖ちゃん日記

令和8年7月17日(金)
隣の太田はレベル4、みどり市はレベル3という記録的豪雨予報。見慣れた所の被害映像がテレビで流れた。大間々はまだ小雨程度。今夜も母とバジマルでパフェを食べ、居合わせた雄貴くん夫婦にインスタを教わった。インスタもフェイスブックもめづらないことばかりだが雄貴くんは「松崎さんの奥様はボクにとっても勉強になる」と気軽に教えてくれる。30歳も年下の師匠に感謝。今朝のトイレ掃除の写真16枚をインスタにアップし、BGMを選んで「大間々駅トイレ清掃第15回」と書き、井みどり市を加えた。インスタとフェイスブックのリンクの手順を教わった。悪戦苦闘。雨勢が強くなったので帰宅した。10時過ぎに風呂に入ると怖いくらい雨になった。風呂から出てお湯を流すと排水溝が溢れて脱衣所にお湯が逆流、パズクになった。これも床上浸水。頭が危険レベル4になっている。



「三方良し」の会と三丁目八坂会では、合祀百年に当たる二〇一三年に「天王横丁」の名を後世に伝えるために説明板を立て、「天王横丁」と書かれた行燈三基を横丁内に設置しました。今年は三丁目が天王町として祇園祭を盛り上げます。祭りの歴史を知ることが、先人たちの思いを受け継ぐことでもあると思います。

『親の小言となすびの花』は千に一つの無駄もない」ということわざがあります。でも若い頃は、親の小言もナスの料理もこんなに嫌いなものはないと思っていました。家庭菜園を始めて気づいたことは、愛情をかけた分だけ実ができるということでした。今年初めてオクラの苗を植え、その美しい花にも感動しました。枝豆の種を2袋も買って庭に蒔きましたがビールを飲む時のことばかりが頭に浮かび、愛情不足と肥料不足で不作でした。



やっちゃんの似顔絵提供…ひさかさん